

課題 2

集落営農法人等の体質強化

計画年度：令和3～5年

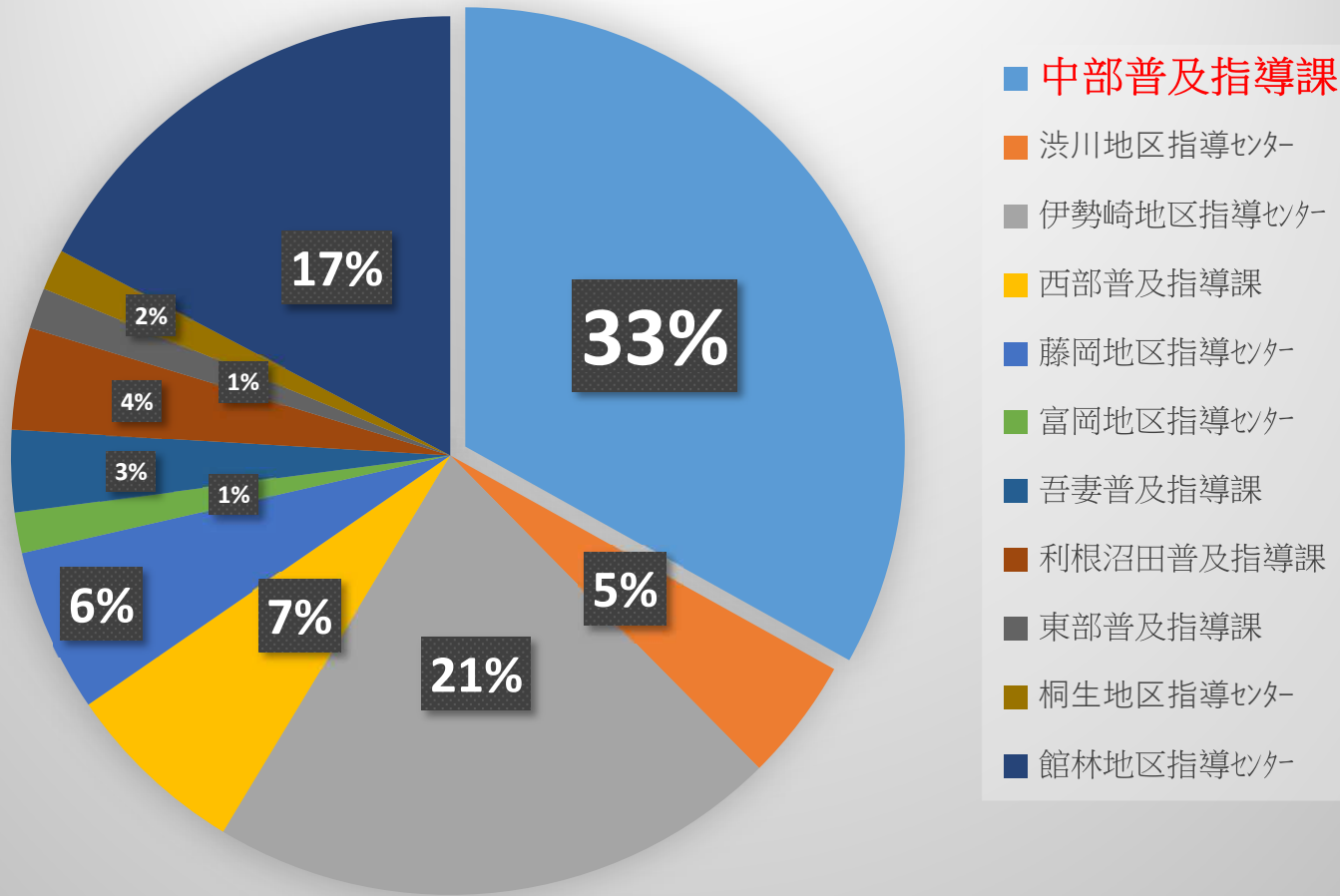
中部農業事務所普及指導課

令和4年産小麦収穫作業の様子



課題設定の背景及び理由①

集落営農組織等地区別組織割合



課題設定の背景及び理由②

1 米価の下落

群馬県産米「あさひの夢」相対取引価格(出荷業者・通年平均)
(単位:円、価格:玄米60kg税込)



2 高齢化、後継者不足



地域の農業が立ち行かなくなってきている



今後、中核経営体として地域農業を担っていくため
には、法人等運営の円滑化と経営の安定化に取り
組む必要がある

主な支援事項と解決手法①

1 集落営農組合連絡協議会への支援

[支援対象: 前橋市集落営農組合連絡協議会]

本協議会の運営支援と集落営農組織が抱える課題解決に取り組む

2 集落営農法人等の運営支援

[支援対象: 集落営農法人等]

法人間の相対では難しい課題への対応

労力補完、機械の共同利用等
法人間の連携を図る



集落営農法人支援PT、耕畜連携推進PT合同会議の様子

主な支援事項と解決手法②

3 集落営農法人等の経営安定

(1) 高収益作物等の導入

[支援対象: 集落営農法人等]

経営安定化を図るために、高収益作物等の導入

(2) スマート農業技術の導入

[支援対象: 集落営農法人等、認定農業者]

スマート農業技術の導入による省力化を推進



子実用とうもろこし収穫作業の様子

到達目標(目標年次の姿)

	R2	R3	R4	R5
	現状	目標	目標	目標
<u>地域協議会の設立数(累計)</u>	3	<u>4</u>	5	5
<u>中長期ビジョン作成による体質強化組織数(累計)</u>	1	<u>1</u>	2	3
<u>高収益作物等の面積拡大組織数(累計)</u>	—	<u>1</u>	2	3

活動経過及び結果①

1 集落営農組合連絡協議会への支援

【活動経過】

- ◆集落営農組合連絡協議会役員会(8月、3月)で、集落営農法人を対象とした運営支援方策に係る意見交換
- ◆JA前橋市、前橋市農政課と集落営農塾開催打合せ

【活動結果】

- ◆集落営農塾でインボイス制度の説明等を行う予定であったが、開催中止となり、代わりに各集落営農組織へ資料配付を行った



集落営農組合に係る意見交換の様子

活動経過及び結果②

2 集落営農法人等の運営支援

【地域協議会設置の検討】

以下の理由から地域協議会は作らなかった

理由・集落営農組織が集まり検討する場がある

- ・JA前橋市支所単位の協議会を考えていたが・・・

JA支所の再編

- ・実効性のある地域協議会が作れないと判断

今後の集落営農法人支援 → 主に個別の法人間連携を支援

地域協議会設置：1協議会 → 法人間連携数：10→11法人
(法人間連携：機械の共同購入、共同作業、作業受委託)

法人間連携は、前橋市担い手育成総合支援協議会のプロジェクトチーム「集落営農法人支援PT」等を中心に対応

活動経過及び結果③

2 集落営農法人等の運営支援

【活動経過】

- ◆法人間連携への支援：「集落営農法人支援PT」での検討、法人「小島田」への巡回時に支援

(令和2年までの連携法人：女屋、二之宮、元気ファーム20など、計10法人)

- ◆中長期ビジョン作成支援：法人「みやぎ」

- ◆「集落営農法人支援PT」

第1回会議(7月)：支援方針等の意見交換

第2回会議(3月)：アンケート調査を基に管内集落営農組織の課題と今後の対応について意見交換

活動経過及び結果④

2 集落営農法人等の運営支援

【活動結果】

- ◆農事組合法人「小島田」と農事組合法人「二之宮」が WCS
用イネ機械で法人間連携



法人間連携が進むことで…

- ・機械を共同利用することによって、機械費用を抑えられる
- ・法人間連携を機に情報共有、ネットワーク化が期待できる

- ◆農事組合法人「みやぎ」で中長期ビジョン作成

活動経過及び結果⑤

2 集落営農法人等の運営支援

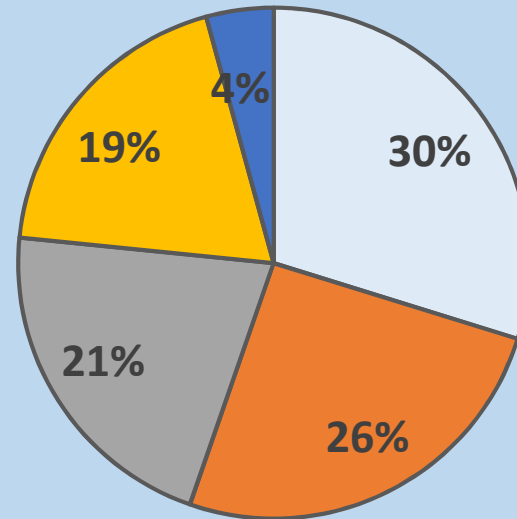
【活動結果】

◆集落営農組織に対するアンケート結果に基づき、**来年度支援方針を関係機関で確認**



- 担い手不足、他組織との連携や統合などの課題が改めて浮き彫りになった

アンケート結果
各組織の今後の課題



- 担い手確保
- 非食用米の作付け拡大
- 他組織との連携・統合
- スマート農業の導入
- その他

活動経過及び結果⑥

3 集落営農法人等の経営安定

◆高収益作物等の導入

【活動経過】

- ・高収益作物・飼料作物面積拡大に向けて、当課の野菜指導係と連携し、現地巡回指導等を実施（野菜等導入法人：二之宮、元気ファーム20、みやぎなど計17法人）



- ・地域水田営農の維持を目的に、主食用米から飼料用米、WCS用イネの作付拡大への取組に加え、R4から子実用とうもろこし生産に向けて取り組んでいる



【活動結果】

- ・法人「二之宮」がWCS用イネ生産面積を約3ha拡大
(令和2年 25.8ha → 令和3年 28.6ha)

活動経過及び結果⑦

3 集落営農法人等の経営安定

◆ スマート農業技術の導入

【活動経過】

- ・集落営農法人、認定農業者等を対象にスマート農業機器導入支援を実施(実演会、現地巡回指導等)



【活動結果】

- ・法人「二之宮」で農業用ドローンを導入(令和4年2月):主に麦類の赤かび病防除で使用
- ・有限会社三輪農園がGNSSガイダンスシステム、自動操舵システムを導入



農事組合法人「二之宮」 農業用ドローン



有限会社三輪農園 自動操舵システム

活動成果

	R2	R3		R4	R5
	現状	目標	実績	目標	目標
<u>地域協議会の設立数</u> (累計)	3	4	<u>3</u>	5	5
<u>中長期ビジョン作成による体質強化組織数</u> (累計)	1	1	<u>1</u>	2	3
<u>高収益作物等の面積拡大組織数</u> (累計)	—	1	<u>1</u>	2	3

残された課題と今後の対応

- 1 各集落営農組織の抱える課題を整理
アンケート結果から法人の経営安定が、待ったなしの状況
- 2 集落営農法人等の経営安定
法人間連携の取組、高収益作物等導入、スマート農業機器導入などの支援が必要



「集落営農法人支援PT」を通じて関係機関で情報共有するとともに、個々の法人に合った支援を行う



前橋地域の集落営農組織の体質強化と水田営農の維持が図られる